2024.10.5. 仙台国際センター

第12回日本くすりと糖尿病学会学術集会

ダイエット目的で宣伝されているGLP-1製剤のWeb広告に関する調査～2022年、2023年、2024年の比較～

〇相澤政明[1)]、井上朋彦[2)]、小林弘忠[1)]

1株式会社メディカルガーデン　ガーデン薬局
2自衛隊横須賀病院 薬剤課

背景

GLP-1製剤の適応外使用に関する関連団体の通知・見解等

2023年4月	日本糖尿病学会	GLP-1 受容体作動薬および GIP/GLP-1 受容体作動薬の適応外使用に関する日本糖尿病学会の見解(改定)
2023年7月	厚生労働省	GLP-1 受容体作動薬の在庫逼迫に伴う協力依頼
2023年10月	日本医師会	糖尿病治療薬等の適応外使用について
2023年11月	厚生労働省	GLP-1受容体作動薬の在庫逼迫に伴う協力依頼（その2）
2023年12月	厚生労働省	GLP-1 受容体作動薬及び GIP/GLP-1 受容体作動薬の適正使用について(医薬品・医療機器等安全性情報　No.406)
2024年2月	（セマグルチド注射薬が肥満症治療薬として保険適用）	
2024年3月	厚生労働省	セマグルチド製剤の最適使用推進ガイドライン（肥満症）における医師要件

目的

- 2型糖尿病治療薬である GLP-1 受容体作動薬を適応外使用である美容・痩身・ダイエット等を目的とした自由診療での使用が社会問題となっており、日本糖尿病学会(2023年4月)、厚生労働省(2023年7月)、日本医師会(2023年10月)が不適切使用に対する懸念・見解を表明した

- 一方、セマグルチド注射薬が肥満症治療剤として保険適用された(2024年2月)

- そこで、美容・痩身・ダイエットを目的として宣伝されているGLP-1受容体作動薬のインターネット広告の変化を肥満症治療剤発売前の2022年、2023年、発売後の2024年について調べた

方法

【調査日】2022年6/23、2023年11/5、2024年5/26

【検索ツール】 Google

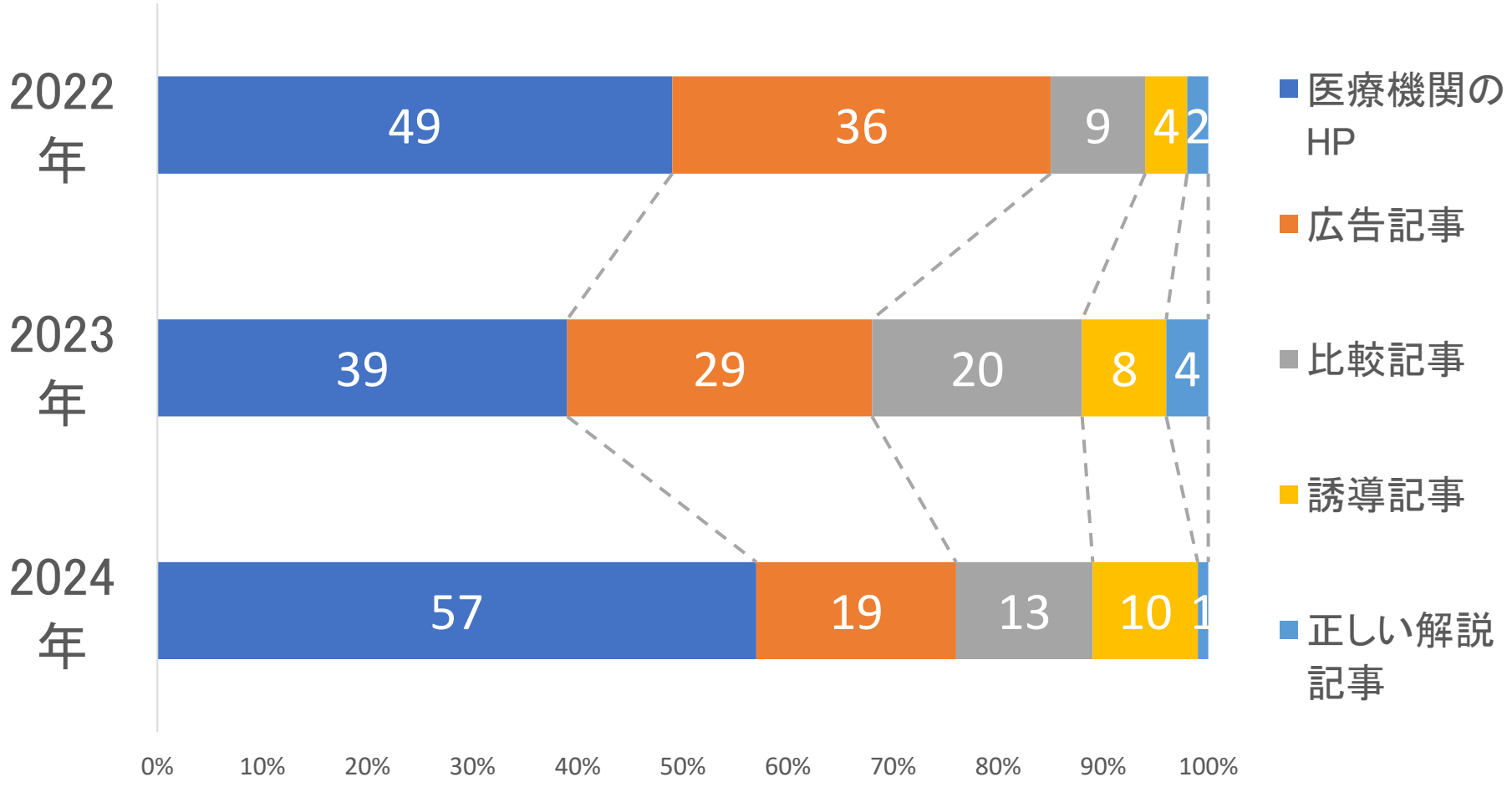
【検索ワード】 「GLP-1__ダイエット」

【調査対象】 検索後に表示された上位100のURL（重複URLを除く）

【調査項目】 ①URL記事の種類 ②抗肥満薬としてのFDA認可の記載 ③使用薬品名の記載 ④GLP-1製剤が使用できない条件の記載 ⑤副作用の記載 ⑥オンライン診療の記載 ⑦標榜診療科 ⑧誤解を招きやすい表現

結果

①URL記事の種類



■医療機関のHP
GLP-1ダイエット目的でGLP-1製剤を提供していることが記載されている医療機関のホームページ

■広告記事
広告主がサイトに料金を払い、広告として表示されている記事

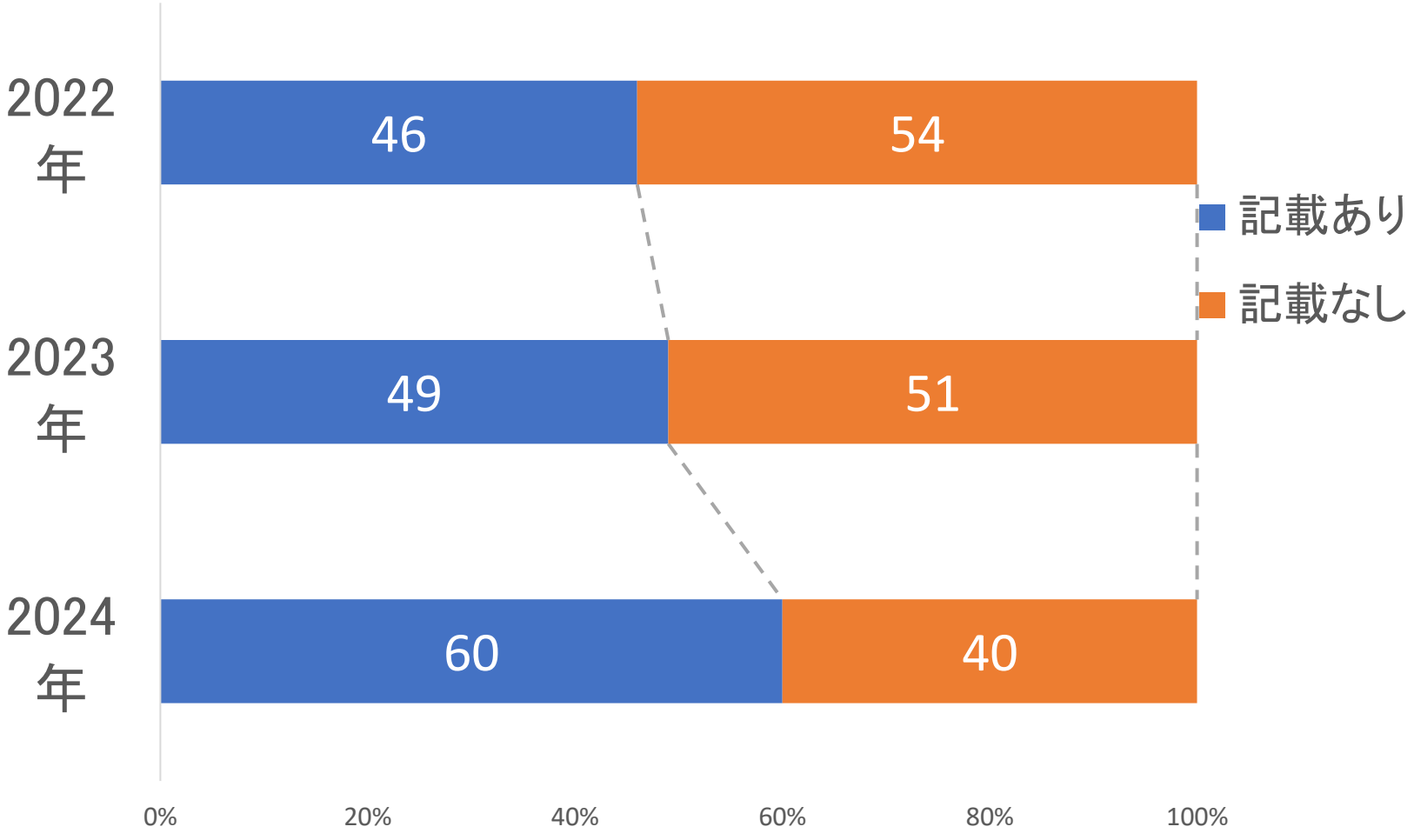
■比較記事
複数の医療機関を比較し、プランやオンライン診療の有無などを比較したサイト

■誘導記事
明らかにGLP-1ダイエットを勧めるような解説がされている記事

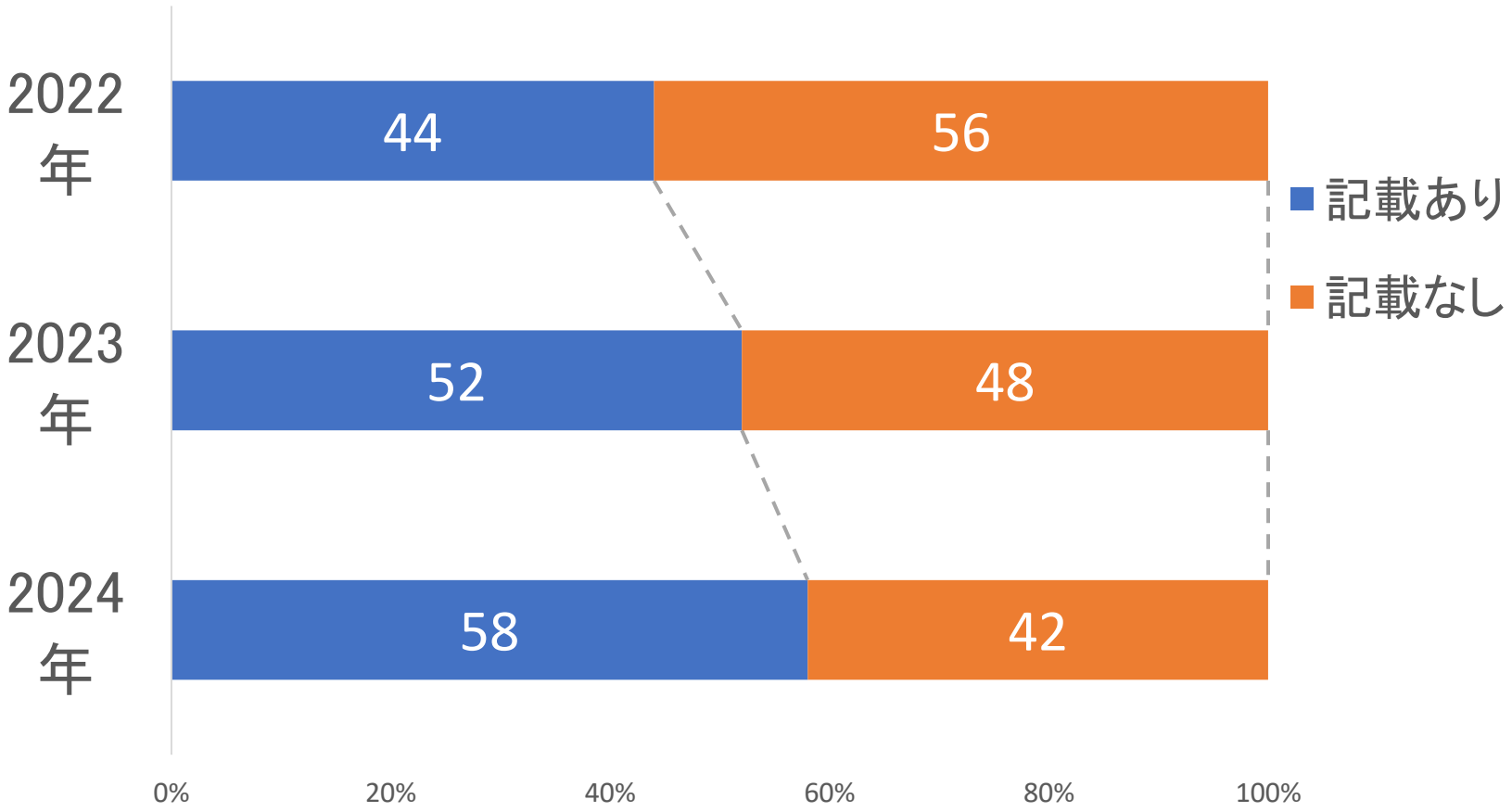
■正しい解説記事
正しい医学的、法的知識をもとにGLP-1の解説をしている記事

②抗肥満薬としてのFDA認可の記載割合

FDA : Food and Drug Administration（アメリカ食品医薬品局）

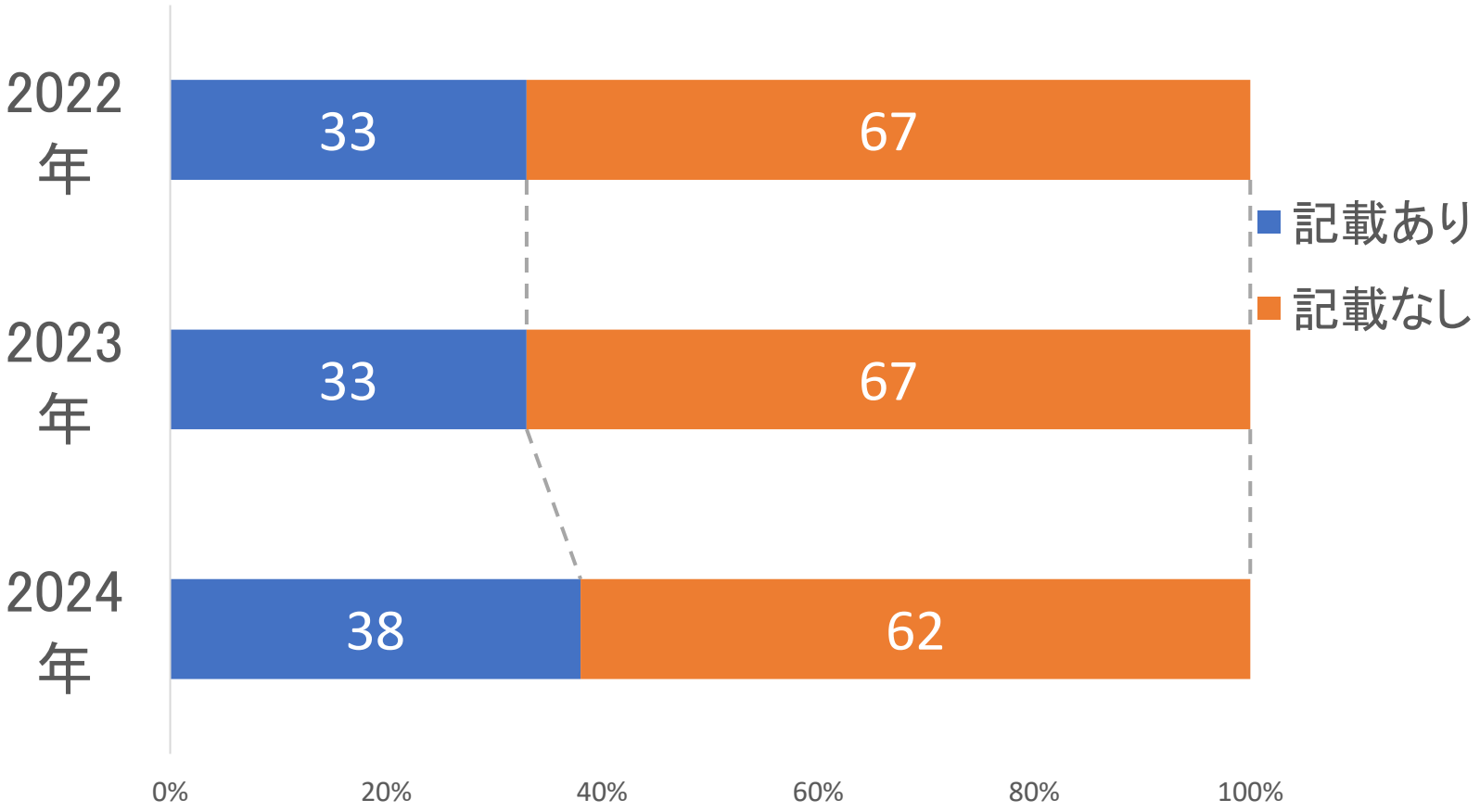


③使用薬品名の記載



記載されている販売名
オゼンピック
リベルサス
ビクトーザ
サクセンダ
トルリシティ
マンジャロ

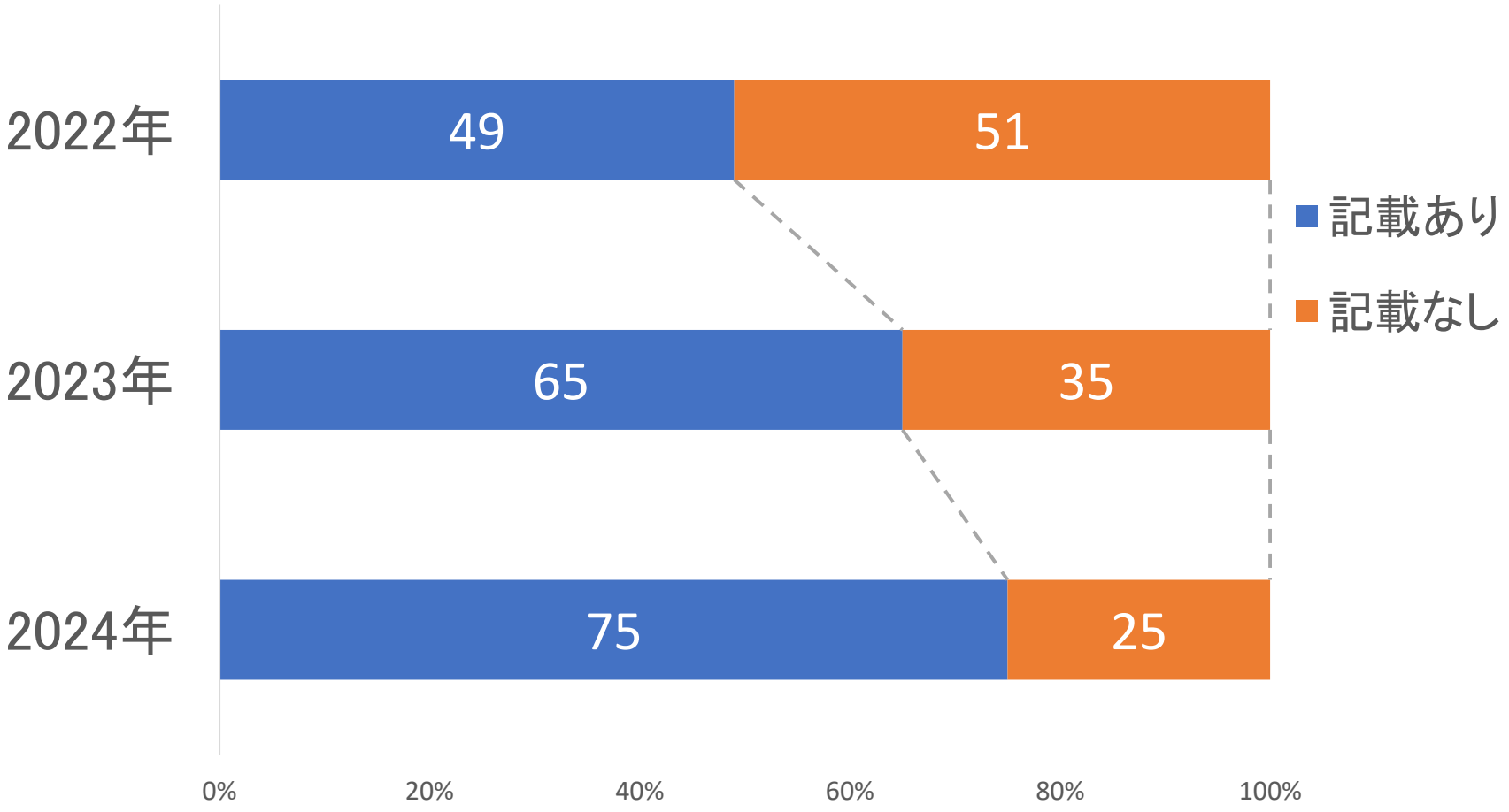
④ GLP-1製剤が使用できない条件の記載



GLP-1製剤が使用できない条件の記載内容

- 糖尿病で加療中
- 癌の既往並びに現在加療中
- 未成年、60歳以上
- 極度の痩せ
- 摂食障害(拒食症や過食症)
- 甲状腺疾患、膵臓疾患
- 利尿剤服用中
- 精神安定剤を使用中
- 妊婦または授乳婦

⑤副作用の記載



GLP-1製剤のWeb広告に記載されている副作用

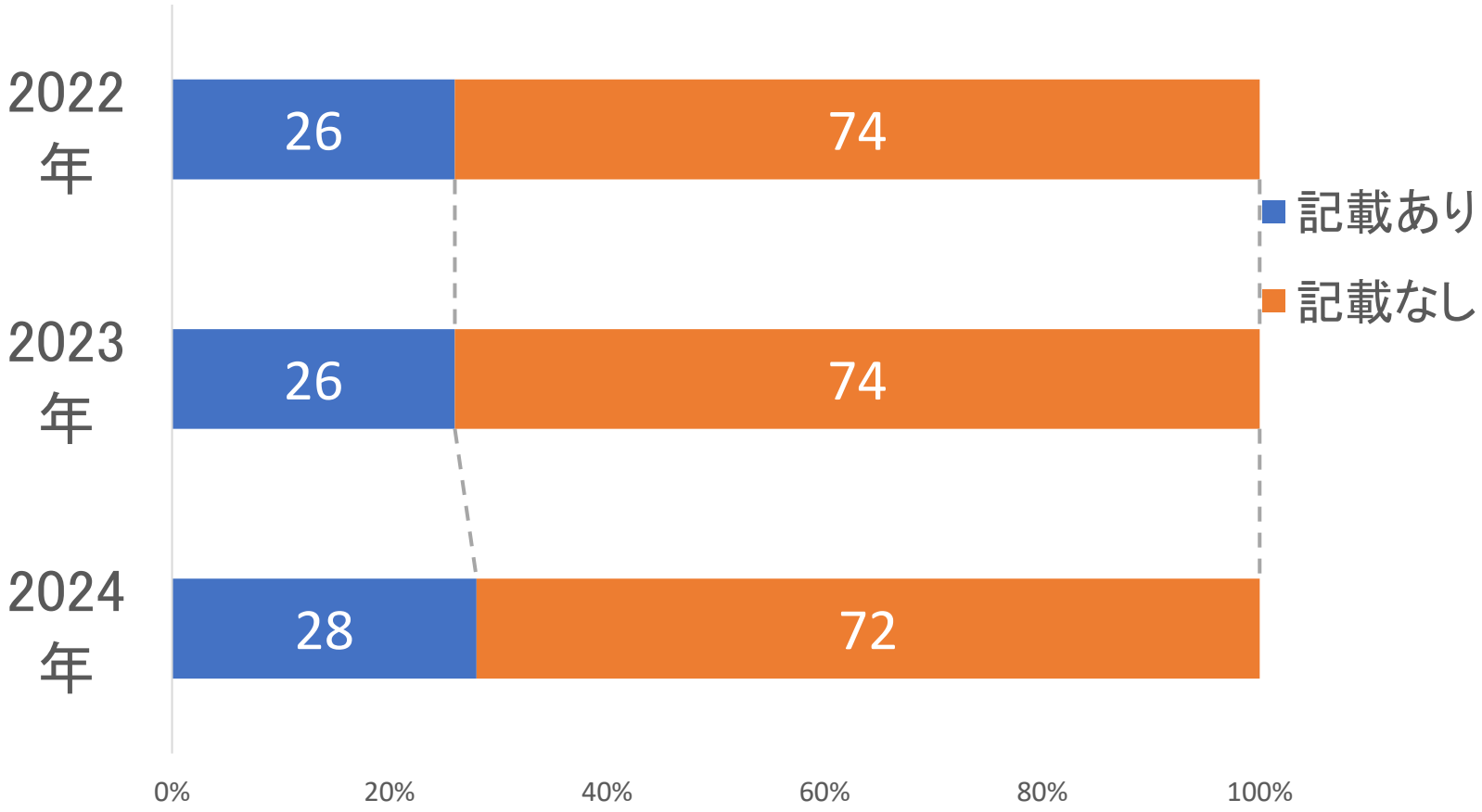
■主な副作用

悪心、嘔気、嘔吐、食欲不振、胃のむかつき、倦怠感

■重篤な副作用

胃腸障害、低血糖(糖尿病患者)、頻脈、甲状腺疾患、胆石症·胆嚢炎(激しい腹痛、背部痛、嘔吐、発熱など)、急性腎不全、アナフィラキシーショック、腸閉塞、うつ、自殺企図

⑥オンライン診療の記載



⑦ 標榜している診療科

美容皮膚科、皮膚科、美容外科、内科、外科、泌尿器科、婦人科、形成外科、整形外科、アレルギー科、耳鼻科、精神科、心療内科、循環器内科、呼吸器内科

<u>多く見受けられた診療科</u>

- 美容皮膚科
- 皮膚科

⑧ 誤解を招きやすい表現

- 医療の力で無理せず痩せる
- 食事制限、運動なしで健康的に痩せられる
- 飲むだけで痩せられる（内服薬）
- 痩せる体質になる
- 米国などで抗肥満薬として承認されている
- 副作用が少ない

考察

1. 日本医師会、厚生労働省、日本糖尿病学会、製薬企業がGLP-1受容体作動薬の適応外処方について注意喚起しているにもかかわらず、「自由診療」を謳ったWeb広告が多く存在する

2. 2022年/2023年と比べると、肥満症治療剤発売(保険適用)後の2024年は医療機関のホームページ、使用薬品名の記載、副作用の記載が増えている傾向にあると思われる

3. ダイエット目的でGLP−1受容体作動薬を添付文書に記載されていない効能・効果、用法・用量などの適応外で安易に使用し、重大な副作用が発生した場合、「医薬品副作用被害救済制度」の対象外になる

4. 医療従事者は、インターネット上に糖尿病治療薬の適応外使用に関する様々な情報があることを認識して糖尿病治療・糖尿病療養支援を行う必要がある

日本くすりと糖尿病学会
ＣＯＩ開示

発表者名：相澤政明、井上朋彦、小林弘忠

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。